

第 85 回 教育研究評議会議事要旨

日 時 令和 7 年 6 月 10 日（火）10：00～11：35

場 所 高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室 + ウェブ（Zoom）併用

出 席 者

【構成員】 浅井議長、荻尾、上垣外、菅原、田島、中野、早川、廣井、福村、門馬、足立、長野、花垣、道園、元村、齊藤、船守、小関、波戸、小林、後田、雨宮、帯名、中村の各評議員

【オブザーバー】 三明監事、白木澤監事、柴原総務部長、森安財務部長、原研究協力部長、永野施設部長、櫻井参事役、島根監査室長、岩見人事担当課長、飯塚財務企画課長、山口研究協力課長、三國 QUP 業務推進室長、河西国際企画課長、栃木資産マネジメント課長、福田東海管理課長

配付資料

1. 第 8 期教育研究評議会名簿
2. 第 83 回・第 84 回教育研究評議会議事要録
3. 令和 6 年度自己点検結果について
4. 人事異動
5. 教員採用プロセスについて
- 6－1. 令和 8 年度概算要求について
- 6－2. 令和 8 年度概算要求について（施設関係）
7. 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について
8. J-PARC センターの運営体制について

【1】評議員の交代について

浅井議長から、資料 1 に基づき、4 月 1 日付けで新たに評議員に就任した早川 尚男 氏（京都大学基礎物理学研究所長）の紹介が行われた。

【2】第 83 回・第 84 回議事要録について

浅井議長から、資料 2 の議事要録は事前に確認を終了しており、確定版を配付している旨の説明があった。

【3】審議

(1) 令和6年度自己点検結果について

足立評議員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

【4】報告

(1) 人事異動

浅井議長から、資料4に基づき報告があった。

(2) 教員採用プロセスについて

道園評議員から、資料5に基づき報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

・人事手続確認委員会によるモニタリングプロセスは、どのように実施されるか。

→人事委員会の開催ごとに、人事委員会での選考結果を同委員会委員からの口頭もしくは書面により、候補者の情報及び審議の概要について報告を受けることを想定している。

・モニタリングプロセスの導入は、人事委員会での選考経過や結果を監視するということではなく、どのような人事が行われているかを確認し、今後の改善や参考に活かすことが目的という理解でよい。また、その結果を機構内の人員配置等にも活かすことを検討いただきたい。

→現時点では、確認結果に応じて選考結果の差し戻しを行うことまでは想定しておらず、人材交流の促進と人事の活発化を目的としている。

(3) 令和8年度概算要求について

長野評議員から、資料6-1に基づき、道園評議員から、資料6-2に基づき報告があった。

(4) 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について

花垣評議員から、資料7に基づき報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

・卒業生のネットワークを活用した海外との人事交流のコネクション構築と寄附金獲得の観点から、卒業生の進路状況を把握できる仕組みづくりを検討いただきたい。

(5) J-PARC センターの運営体制について

小林評議員から、資料8に基づき報告があった。

【5】研究活動報告

(1) 花垣評議員から、量子場計測システム国際拠点について報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

・超伝導転移端検出器（以下、「TES」という。）は、どこで開発する予定か。

→現在は、カリフォルニア大学バークレー校周辺のベンチャー企業で開発を行っているが、宇宙科学研究所（ISAS）及びカリフォルニア大学バークレー校にある QUP のサテライトオフィスの活用も模索している。長期的ビジョンとして、将来的には KEK で TES の開発を行いたいと考えているが、現時点では単独での実施は困難なため、まずは物質・材料研究機構や産業技術総合研究所などとの協力体制を構築していきたい。

- ・ TES の研究開発について、現在の KEK の状況はいかがか。

→十分な専門性を有しているとは言えないものの、TES の利用に関して高い専門性を持つ人材が数名在籍している。着実に成果を上げ、TES 供給側からの信頼を獲得することが、TES を作ることへの追い風にもつながると考えている。そのため、研究の持続可能性を確保すべく、若手人材の育成やコミュニティ全体で活躍の場を支えることができるよう検討したい。また、開発に必要なクリーンルーム等の設備が大きな課題であり、新規設置には数億円規模の費用が見込まれる。日本には専用の設備を持つ施設が限られているため、国内外の研究機関との連携を含め模索していく。

→組織はドメインに分かれているとのことだが、中核的な技術の確立と継続的な発展は重要であり、今後の活動に期待したい。

- ・ QUP の大きな課題の一つが人材不足であり、その解決には QUP の活動内容の明確化と発信が重要である。特に、今回新たに加わった研究テーマは魅力的であり、興味を持った人が集まることを期待する。また、研究成果の向上も人材確保につながると考える。

- ・ 量子情報との連携は検討しているか。

→QUP での連携は、現時点では検討していないが、素粒子原子核研究所・理論センターでは、先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）を通じて連携を進めている。KEK としては、センサーと一体化するための量子との接続性、ミリケルビン領域を生み出す大型冷凍機の研究開発、高温環境でも動作可能な量子センサーの基盤技術開発の 3 点に絞って量子情報分野と連携することを検討している。

【6】その他

浅井議長から、閉会の挨拶があった。また、次回の評議会は令和 7 年 11 月 28 日（金）に開催するとの案内があり、閉会した。

以 上